

全国知事会議の記者会見概要（未定稿）

【日 時】 平成 23 年 5 月 31 日（火） 18：25～18：35

【場 所】 都道府県会館 6 階 知事室

【出席者】 山田全国知事会会長（京都府知事）

（山田全国知事会会長）

菅総理、片山大臣をお招きしてそれなりの意見交換ができたのではないかと考えております。私どもの方も、だいたい言いたいことは申し上げられたとっておりますが、一番大切なのは、本当に、私どもも震災対策に協力をしていくので、私どもの意見を早急に聞いてもらいたいということです。そのためにも国と地方の協議の早期開催を総理に求めましたが、既に社会保障と税の一体改革については議論が進んでいます。その議論の中身を見ると、片山大臣も言っていましたけれども、国が自分たちの視野の中で物事を考えているんだという感じが強く出ています。しかしながら実際の社会保障というのは、国の視野を超えた範囲で地方が主体となって行われているんだということを改めて申し上げたいし、国と地方の協議が 1 日も早く行われ、その中できちんと議論されることを願っております。それが遅れて国と地方の協議ができないまま社会保障と税の一体改革が進んでも、その時に我々は協力できないと申し上げます。

<質疑応答>

（記者）

震災復興に関しても意見が交わされましたが、そのような議論が行われている中で、野党から内閣不信任決議案を提出する動きがある上、与党内でも賛同するような動きが見られています。地方側からは、こうした動きについてどのように見られていますでしょうか。

（山田全国知事会会長）

知事会の方から国の政府のあり方、中身について議論をする気はないけれども、やはり非常時ですから、我々地方の意見が 1 日も早く実行されるようお願いしたいし、そうあるべきだと思っております。

（記者）

本来、復興対策を進めていかないといけない政府与党ですが、まとまっていない状況をどのように思いますか。

(山田全国知事会会長)

そのあたりは、一日も早くまとまる体制を作ってもらわないといけないということでしょう。それ以上は、国のあり方の問題だから我々としては自分たちの主張、やれることをやっていくしかない。

(記者)

改めて、今日総理を知事会議に呼んだ狙いと、総理、片山総務大臣が来たことによって知事会として得た収穫は何か教えて下さい。

(山田全国知事会会長)

これだけの大震災の中で我々も協力をしてきたので、これから更に復興に向かって話を進めていくときに、総理にも地方の想いを聞いてもらいたかったし、その中で答えていただきたかったというのが一番の我々の狙いです。あまり踏み込んだ発言は総理からはなかった感じもするのですが、我々の思いはわかっていたのではないかと思います。その点、片山大臣のほうから、かなり突っ込んだ発言がありました。安心できる面と懸念する面がありましたけれども、かなり有意義だったのではないかと思います。

(記者)

特に、片山大臣のところで、これは知事会として評価できるところ、危惧するところはどこか具体的にお願いします。

(山田全国知事会会長)

基本的に、社会保障と税の一体改革について、現状における地方の立場についての理解を示していただいて政府の中で頑張るという話をしていただいた点は収穫だと思いますが、その反面多勢に無勢だという話もありましたので危ないのかなという点は不安材料になったと思います。

国家公務員給与について、ある程度は筋論はきちっとおっしゃっていただいたのかなと思っております。それがきちんと通れば、我々もそれなりの対応ができるのではないかと思います。その点はまだまだこれからです。私たちも、いろいろな面で復興対策については協力してまいりますけれども、それは国と地方がきちんと協議をしていく中で、いろいろな問題を議論できるよう筋を通していただきたいと思っております。その点については再度国にお願いをし、明確に協議をしていくというお話がありましたので、その通りになることを期待しております。

(記者)

愛媛県知事からの原発の安全性の確保について政府が動いてくれないと対応ができないというご発言についてどうお考えか。

(山田全国知事会会長)

その通りではないでしょうか。今までは国が責任を持って原発の安全性は確保するんだと言ってきたところが、それを外れてしまったら今まで言っていたことと違ってしまいますので、国の責任はしっかり果たしていただくのが当然です。それに対して、私たちも、今まで任せきりにしてきたことは反省して、今日知事会のほうで、原子力発電対策の特別委員会の設置が決まりましたので、これを中心に言うべきことは言っていくという体制を取りたいと思います。

(記者)

それに関連して、夏の電力不足が懸念されますが、現在定期点検で停止中の原発の再始動については。

(山田全国知事会会長)

安心・安全が非常に重要だと思っています。それは、今回の福島原発でも如実に現れていると思いますので、その点で再開の確認等を考えていくというのがそれぞれの知事の思いではないでしょうか。

(記者)

今日、総理と知事さんとの意見交換の中で、原発に対する切実な意見が多かったかと思いますが、それに対する総理のお話があまり具体的なものではなかったのですが、今日の対話についてどのように受け止められましたか。

また、特別委員会の発足が決まったということですが、もう少し具体的に活動方針とか人事について教えていただけますでしょうか。

(山田全国知事会会長)

ある程度はシナリオなしでやっています。今日は、総理にこちらの想いを聞いていただくということが焦点になっていましたので、その点からすると、最初から突っ込んだ回答があるとは期待はしておりませんでしたし、それは難しいでしょう。これから我々も意見をまとめていかなければならないので、先ほど話がありましたように、今我々にとっても原発再開の問題ですとか風評被害の問題ですとかいったものが、大きな問題として如実に出てきているわけですから、こうした問題についてばらばらに行動するのではなくて、知事会としてある一定の意見を持って行動していくべきではないかと思っています。そうした点から、原子力発電所の立地県を中心にした形で、特別委員会を立

ち上げたいと思っています。参加は立地県に限ってはいませんので、非立地県からも参加があると思いますが、そういうことも踏まえて人事もしていきたいと思っています。

(記者)

第1回目の会合と一定の方向性はいつぐらいまでに出す予定か。

(山田全国知事会会長)

ここは、状況は日々変わっているしなかなか難しいところなので、実際に委員会を立ち上げて委員長さんをはじめとした委員の皆様と議論をしていく中で出さないと、私が全部スケジュールまで決めてしまったらそこはまずいでしょう。

(記者)

先ほど復興対策で地方側も協力しないといけないというお話がありましたが、その中には財源面での協力が含まれるのでしょうか、含まれないのでしょうか。

(山田全国知事会会長)

財源面についてどのような話が出てくるのか。これだけの大震災ですから、基本的には激甚災害のように国が中心になるということは間違いないと思っております。そして、その中で地方公共団体もどういことができるのか。私ども京都府におきましてもこの前の議会において支援対策だけでも数億円の補正予算を臨時で出ささせていただきましたし、そうした点ではいろいろと協力しております。それぞれの地方公共団体の立場の中で考えていく話ではないかと思えます。特に知事会として、財源を云々という話は念頭にはありません。

(記者)

交付税を削ってという話は絶対に譲れないということですか。

(山田全国知事会会長)

どういう形で話が出てくるかでしょうね。これだけの大震災の中で、例えば、国の公共事業の5%が停止になっているわけですね。そうした問題はいろいろなところに出てくると思っております。問題なのは、それがきちんとした筋を通した形で出てくるのかということです。我々の金を一銭でも削られたら云々という話を私はあまりする気はありません。ただ、筋の通らない話は絶対に曲げません。

以上